

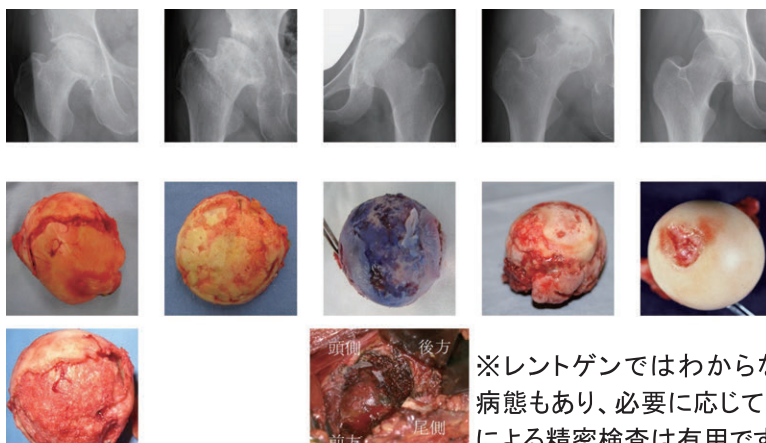
突然の股関節大腿骨近位部骨折治療と
2次骨折予防整形外科 部長
赤坂 嘉之

以前、2021年2月号で「変形性関節症と人工関節置換術」について紹介させていただきました。
(https://www.kanto-ctr-hsp.com/ill_story/202102_byouki.html) 関節軟骨がすり減ることによる「変形性関節症」は徐々に痛みが悪化することが多い病気ですが、今回は**突然の股関節痛、大腿骨近位部骨折治療と2次骨折予防**について紹介します。

突然の股関節痛で、“足を引きずるようになった”、“足を着くことができなくなった”という患者さんを診察する機会があります。患者さんの年齢や併存疾患など考慮する点ではありますが、成人の方では「大腿骨頭壊死症」や「大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折」、「一過性大腿骨頭萎縮症」、「がんの骨転移」などを疑い必要に応じてMRI検査を行うことが診断の助けとなります。診察、画像所見などを参考に治療方針を検討し、説明いたします。

手術治療の緊急性は後に紹介する骨折ほどではないものの、早期に手術を行ったほうが良いケースもあるため、相談いただければと思います。治療方針を考える際には治療法の利点欠点を考えるのと同時に、痛みで動けなくなることによる体力の低下や運動をしないことでの内科疾患コントロールの問題、人との交流が疎遠になることによるこころの問題も考えると良いでしょう。より良い生活が送れるように、患者さんとともに考えてゆきます。

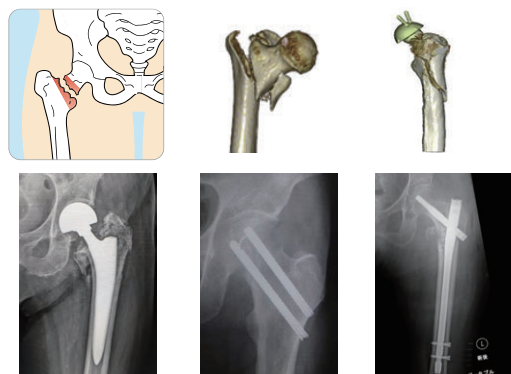
様々な股関節の病気と摘出大腿骨頭 (筆者経験症例より)



※レントゲンではわからない病態もあり、必要に応じてMRIによる精密検査は有効です

【大腿骨近位部(足の付け根:股関節)骨折について】

いわゆる外傷による足の付け根の骨折(「大腿骨転子部骨折」や「大腿骨頸部骨折」をあわせて「大腿骨近位部骨折」といいます)は、もとの筋力・体力低下や他の運動器疾患の影響もあるのですが、思いがけないタイミングで突然起こります。「不顕性骨折」というレントゲンではわからない骨折もあり、受傷直後は歩ける人も稀にいます。しかし、多くの人は自分の力で立ち上がることができずに救急車で受診されます。



上段:最近では以前行った手術のインプラント周囲の骨折で手術をする患者さんもいます

下段:大腿骨近位部骨折に対して行う手術

高齢者に多い「**大腿骨近位部骨折**」は、骨粗鬆症を背景とし、自立した生活に影響する部位の骨折であり、当院では院内多職種連携による次の骨折を防ぐ治療(2次骨折予防)にも取り組んでいます。

治療の基本的考え方は早期手術、早期リハビリテーションで、体内に金属などの器械(インプラント)を入れて治療します。また最近では、以前入れたイン

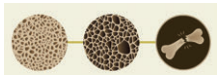
プラント周囲での骨折をする患者さんもいらっしゃいます。元の生活状況や併存疾患の状態などにより、患者さんごとに目標ゴールは異なりますので、ケースワーカーを中心に退院転院の調整をお手伝いさせていただきます。

【院内多職種連携～次の骨折を防ぐために骨粗鬆症治療を行いましょう】

若い頃の正常なホネ(骨)では、軽い尻もちなど軽微な外力によって骨折するようなことはありません。骨が弱くなる骨粗鬆症の要因は、加齢による体内環境の変化のほかに、運動量の減少やフレイル、栄養の不足や偏り、病気治療に必要で使用している薬剤の影響、生活習慣病を含む併存症の関連なども考えられます。

運動・栄養・社会活動参加・骨粗鬆症治療薬による骨折予防を、早い時期からかかりつけの医師と相談することが重要です。また骨粗鬆症治療薬使用にあたっては、口腔内衛生を確認してからの使用が安全ですので、歯科医の先生による定期的な診察もとても大切です。

足の付け根(大腿骨近位部骨折)や背骨(脊椎圧迫骨折)などの骨粗鬆症を背景とする骨折(脆弱性骨折)は、活動性や移動能力、生活の質を低下させ、健康寿命にかかわってくる骨折です。さらにこれらの脆弱性骨折では「骨折の連鎖」といった他の部位や反対側の骨折が引き続き起こる危険性が高いため、次の骨折を防ぐ治療(2次骨折予防)が欠かせません。



続発性骨粗鬆症の原因

| | |
|-----|--|
| 栄養性 | 胃切除後、神経性食欲不振症、吸収不良症候群 など |
| 薬物 | ステロイド薬、性ホルモン低下療法治療薬、メトトレキサート など |
| 不動性 | 全身性(臥床安静、麻痺、廃用症候群、宇宙旅行)、局所性(骨折など) |
| その他 | 糖尿病、関節リウマチ、アルコール多飲(依存症)、慢性腎臓病(CKD)、慢性閉塞性肺疾患(COPD) など |

骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版より一部抜粋

当院では他科・関連部署との協力体制が整っており、早期手術・リハビリテーション介入が可能です。手術後の患者さんはリハビリテーション目的での転院となる方が多いのですが、入院中から2次骨折予防のための治療・指導を院内多職種で連携しながら行い、繰り返す脆弱性骨折の予防に努めています。

整形外科に限ったことではありませんが、手術を含めた全ての治療は、医師の力のみでは良い結果を導くことはできません。外来や病棟で接する頻度が多い看護師、リハビリスタッフのほかに、放射線・検査技師、薬剤師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多くのスタッフが、患者さんの回復のため専門知識・技術を結集して治療にあたっています。患者さん一人一人を大切に考え、早期回復を目標に治療・お手伝いしていきますのでご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また「緑のひろば」2022年12月号の『画像診断の話』では骨の強さについて紹介しており、当院ホームページ上でもご覧になれます。

(<https://www.kanto-ctr-hsp.com/midorinohiroba/pdf/2022-12/1.pdf>)。

高齢者の「せぼね」の骨折については、「緑のひろば」2019年9月号で紹介しております

(https://www.kanto-ctr-hsp.com/ill_story/201909_byouki.html)。但し、

現在当科では脊椎手術は行っておりませんので、手術必要時は他院へ紹介させていただきます。

骨折の有無

| | 骨折なし | その他の脆弱性骨折あり | 椎体または大腿骨近位部骨折あり |
|------------|------|-------------|-----------------|
| 骨密度検査 | | | |
| YAM値 80%以上 | ◎ | △ | |
| YAM値 80%未満 | △ | | |
| YAM値 70%以下 | | | |

◆黄色の範囲に該当すれば、骨粗鬆症薬物治療の対象です。
◆骨密度検査以外に骨折の有無により治療開始を決めます。

骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版より作成

コメディカルによるFLSの取り組み

栄養管理室

骨折を繰り返さないために

入院中の食事

骨折後に重要な栄養素であるたんぱく質、カルシウム、鉄、ビタミンD等を強化した『貧血食』を提供しています。



栄養指導

- ・入院前の食事内容の確認、栄養状態の評価、退院後の食事の提案等に関する栄養指導を、ベッドサイドにて患者さんご本人へ行います。
- ・ご希望に応じて入院中のご家族への栄養指導、FLS 外来受診時の栄養指導も行っております。
- ・『栄養情報提供書』を通して、施設やリハビリ病院への情報提供を適宜行い、地域との連携を図っています。



(栄養管理室 草島 伽那子)

薬剤部

コツコツ続けよう骨粗鬆症治療薬

薬剤部では、入院された患者様のお薬、サプリメント・健康食品のチェック、血液検査データなどの確認を行い、骨粗鬆症治療薬を開始または変更するにあたっての説明やサポートを行っています。

骨粗鬆症治療薬には、

「骨が壊れるのを抑える薬」「骨を作る働きを助ける薬」「骨の材料を補う薬」

があります。飲み薬だけでなく注射タイプのお薬もあり、また、毎日、週に1回、月に1回など使い方も様々です。これらのお薬の中から体の状態や年齢、生活の状況などに合わせてお薬を選択します。

骨粗鬆症治療薬は治療を開始しても、すぐには目に見える様な改善や変化は現れませんが、根気よく治療を継続することで骨折の予防につながります。

お薬に関して不安がある際は自己判断でやめたりせずに一度ご相談ください！
またサプリメントも含め飲み合わせに注意が必要な場合もあります。
ご不明点もお気軽にお尋ねください



(薬剤部 主任 藤 真由美)

リハビリテーション室

リハビリテーション室の FLS への取り組み

歩行能力評価

1・2・3週目と最終日で（杖・歩行器などの）歩行補助具の使用状況・介助量等の歩行能力の評価を行います。



筋力の評価

ロコモティブシンドロームの評価である2ステップテスト・立ち上がりテストに加えて全身の筋力の指標となる握力を測定して筋力低下の評価を行います。



認知機能評価

認知機能の評価として MMSE（ミニメンタルステート検査）を測定します。



転倒の評価と 予防指導

骨折の受傷機転が転倒であることが多いため、転倒リスクの有無を評価します。
また再転倒予防のために本人や家族、希望があれば施設職員に転倒予防指導を行います。



外来運動指導

FLS 外来の際に必要なに応じて運動指導を行います。



（リハビリテーション室 理学療法士 三橋 裕平）

診療放射線科

骨の強さ、知っていますか？

■骨密度ってどういう検査？

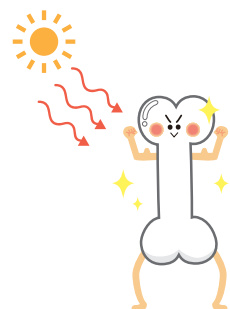
検査自体に痛みはなく、息止めや食事制限もありません。お洋服に金属、ボタンなどが付いている場合は着替えていただく場合があります。検査用ベッドに仰向けで寝て5分程度の測定で終わりますので、誰でも気軽に検査することができます。



GE社製（全身骨密度測定機器）
高精度で最新の骨密度装置

■骨を強くするためにできることは？

カルシウムを多く含む乳製品や小魚、豆製品、青菜などの摂取、さらにビタミンDを多く含む魚やキノコ類の摂取をおすすめします。ビタミンDは日光浴でも生成が促進されるので、両手のひらを15分間太陽に当てただけでも効果が期待できます。



（診療放射線科 笠原 実央）

看護師、MSW による 患者さんの フォローアップ

患者さんが治療を継続し、治療効果を評価するために多職種が連携してフォローアップしていきます



病棟看護師

FLS における病棟看護師の役割は患者さん和他職種との「調整役」です。

手術の翌日にはリハビリが始まり、理学療法士と情報共有しながら患者さんの状態に合わせて日常生活や転倒予防の援助を行います。また、術後の痛みの程度は患者様によって違うため、医師や薬剤師と相談しながら患者さんにあった鎮痛剤を選択しています。

骨折を予防するためには、丈夫な骨をつくるために栄養バランスのよい「食事」を心がけ、骨粗鬆症の「くすり」をきちんと続ける。普段の生活で「転ばない」工夫を見直していくことが大切です。そこで、入院中に家族や施設の方も希望があれば、各専門の職種から「栄養指導」「薬剤指導」「転倒・転落予防指導」を受けることができます。何かありましたら、病棟看護師にお申し付け下さい。



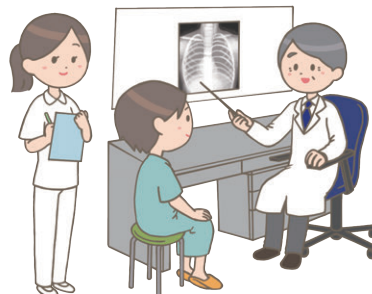
退院時には「骨の健康手帳」をお渡しします。退院後の日常生活の状況を記載し、外来時に持参して頂けると、かかりつけの医師や薬剤師などが治療や指導内容の参考にさせていただきます。

(4階病棟 嘉数 あゆみ)

外来看護師

まずは外来で病状・手術・入院の説明とともに、FLSサポートサービスについても説明させていただき、同意を得てからサポートサービスが始まります。

退院後のFLS外来は木曜日の午後 14:00 ~ 15:30 での予約外来となり、採血・レントゲン・骨密度の検査を行い、その結果を基に今後の治療方針（薬の内容など）を決めて行きます。患者さんの ADL（日常生活動作）や、環境、サポート体制など、本人だけでなく周囲の状況を理解した上で、多職種が連携をとりサポートを行って行きます。食事や栄養に関しては栄養士さんと連携をとり、希望があれば次回以降いつでも栄養指導の介入を依頼できるようにしてあります。日程の都合が合わない場合は、お電話で変更は可能ですが、予約に来られなかった場合は、こちらからも連絡させていただきます。退院後の現状を確認しながら、お電話で再予約し、継続して FLS 外来に来院できるように調整しております。



(整形外科外来 市川 匡子)

病院受診

入院

手術

リハビリ

退院調整

再骨折予防指導

薬剤指導

栄養指導

転倒予防指導

退院

骨粗鬆症薬開始

FLS 外来

術後経過診察

骨密度測定

薬剤指導

栄養指導

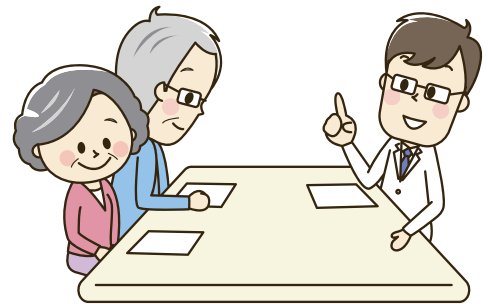
医療ソーシャルワーカー

医療ソーシャルワーカーは通称 MSW (Medical Social Worker) と呼ばれ、患者さんやご家族の“生活”に重きを置き、入院中や退院後のご相談をしながら一緒に考えていく、病院内唯一の社会福祉専門職です。

FLS の対象である大腿骨近位部骨折(転子部、頸部)は手術後にリハビリを継続される方が多くおられます。当院のような急性期病院は手術等の急性期治療を行い、その後はリハビリ専門の回復期リハビリテーション病院等で社会復帰を目指すのが一般的です。その際、MSW は患者さんやご家族と相談し、意向を伺いながら転院先を一緒に検討します。ご自宅に帰る場合にも在宅の体制や環境を調整していきます。

FLS は患者さんが退院された後の生活を見据えた取り組みです。転院される際には転院先の病院に、ご自宅に帰られる場合にはかかりつけ医に FLS の取り組みをご説明し、骨粗鬆症薬の服用を共有し、切れ目無く医療・介護が提供されることを目指します。MSW は院内の多職種と協同し、他機関との連携を密に行い、患者さんやご家族が安心して生活ができるように取り組んでまいります。

(地域連携課 医療ソーシャルワーカー 相馬 初穂)



???

Q FLS ってなんですか

◇
A◇

Fracture Liaison Service (骨折リエゾンサービス) の略で、再骨折の予防をサポートします。

リエゾンとは「連絡係」「連絡窓口」「つなぎ」などを意味するフランス語です。

???

Q 断ってもいいのか

◇
A◇

もちろん大丈夫です。

???

Q 保険でできるんですか

◇
A◇

保険診療です。

???

Q どのくらいの頻度で通うのか

◇
A◇

基本的には1回 / 月ですが、患者さんの状態や周囲の環境も考慮し、2回目以降は調整可能です。

???

Q 元々他院処方で骨粗鬆症の薬を飲んでいる人は

◇
A◇

一度 FLS 外来を受診していただき、その結果や患者さんの状況を踏まえて、どこで継続するかを検討していきます。

